

平成 28 年 8 月 23 日 (火)

8月23日・火曜日 2016年(平成28年)

日刊工業新聞

ナノテク国際会議開催

日本で11年ぶりに開かれるナノテクノロジーの国際会議「IEEEナノテクノロジー」が22日、仙台市で開幕した。同会議には、材料からデバイス、製造、コンピューティングまで、世界30カ国から多様な分野の研究者が集う。これを機に、日本のナノテクを集集し、再び盛り上げようとの機運が高まっている。

(藤木信穂)

仙台で25日まで

進める契機にしたい」と話す。会期は25日まで。

会議の目玉の一つが、米IBMが構想する「脳型情報処理システム」をナノテクの観点から議論する特別セッションだ。また、東北大が強みを持つ微小

日本勢、劣勢挽回の契機に

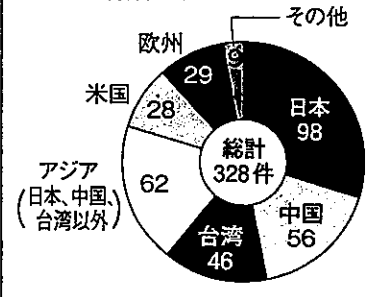
MEMSなど議論

IEEEナノテクノロジーは、米電気電子学会(IEEE)が主催し、毎年、世界各国で開かれるナノテク分野最大の国際会議。2001年に米クリントン政権下で打ち出された国家戦略「国家ナノテクノロジー・イニシアチブ」に基づいて設立され、今年で開催16回目を迎える。

16年の会議は、日本のナノテク研究拠点の常態に遅れている。今一つである東北大学の研究者が中心となつて、ナノテク研究を言葉は以前ほど聞かれ

招致した。東北大との電気機械システム(MEMS)などのセッションもあり、基調講演(JIS)ではIBMフェローや台湾国立交通大学学長を指すことが多い。しかし、日本からはスナノテクは本来、分業横断的な融合技術(寒川教授)だ。原子や分子の配列をナノレベルで制御し、新規の材料だけでなく、デバイスやシステムを構築する。今年、欧米から、中国や台湾、シンガポールなどアジア諸国に拠点が移りつつある。今年の会議も、日本勢の劣勢挽回の契機に

IEEEナノテクノロジー2016
国別投稿論文数



ムを創る。ナノテクはロボットや人工知能(AI)、コンピューティング、IoT(モノのインターネット)